

河川環境整備は子どもの教育、まちづくりに有効、予算増を

3月7日予算特別委員(下水道・河川)で村上市議

22年度予算の河川整備費19億円の内、河川環境整備予算は2000万円にとどまっています。市は10年前に策定した河川環境指針で、川を自然、人、まちとの関りの視点から環境整備をすすめ、整備をおこなう河川の選定を、整備可能な敷地があること、安定した適度な流れがあること、整備後の市民利用が見込まれること…などを条件に、地域住民と対話のうえで進めています。

村上ひとし市議は、河川の地域特性に応じた環境整備の促進が大切であると前置きしたうえで、厚別区を流れる熊野沢川が、地域要望と協働により桜並木を整備し植樹後の管理も住民参加ですすめられていることを紹介。「例えば親水空間の整備と合わせて、魚道などを整備、生物を観察できる環境教育の場になることが期待される」「環境教育の場になるような環境整備の取り組みに進めるべきではないか」と質問しました。

担当部長は、自然の多様性や命の大切さを学ぶことができるような自然環境を生かした取り組みは非常に重要」と答弁しました。

村上市議は、新さっぽろ駅周辺のまちづくりがすすむなかで、駅周辺を流れる野幌川を地域の資源として有効活用できないかという声が寄せられていることを紹介し、「一つの手法として、北海道から野幌川の権限移譲を受けて、地域との協働による河川環境整備に取り組むことが有効との考えがあるのか伺います」と質問。河川が江別市にまたがることから権限移譲の対象ではなく難しいとの答弁でしたが、「河川管理者である道と連携した環境整備」や予算の増額を求めました。

太陽光発電の導入、補助金申請は年々増加 積極予算で対応を

3月8日予算特別委員(環境)で田中市議

温室効果ガスの低減に役立つ再エネ省エネ機器の導入で、太陽光発電設備は、市内の新築戸建てへの設置が11.8% (18年)、14.8% (19年度)、16.5% (20年度)と増加(全数調査は5年に一度のため新築のみ)傾向にあります。加えて、設置希望者出している補助金の実績が、20年度338件の申請にたいし317件に補助(21件辞退)、21年度は見込みを超える533件の申請があり抽選で471件が当選、464件が設置(7件辞退)し、62件が当選から外れ、補助を受けることができませんでした。

田中市議は、こうした実態を聞いたうえで、市は22年度予算で予算を2億4000万円に拡大しましたが、「予算の積算をどのように見込んだのか」と質問。担当部長は、抽選となった「令和3年度の申請件数に対応した」「今後とも市民のニーズに対応したい」と答弁しました。

さらに、他都市と比較して暖房用の消費量が多く、住宅の太陽光発電設備の設置という再エネ導入がすすむことが、「自分たちで作った電気を自分たちで使うことが限られた電気を大切に使う行動にもつながり省エネにもつながっていく」とも指摘。1件当たり補助上限額30万9000年の予算の現状を踏まえて、さらに積極的に予算計上していく認識があるのか質問しました。

担当部長は、「北海道と連携し、割安に太陽光発電設備を導入できる太陽光パネルの協働購入事業を始めた」と答えました。田中市議は、初期費用は無料、電気料金も導入前よりも安くなることも広報し、予算で見込んだ以上の申請があると想定し予算措置を求めました。

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。